

委員からの質問・意見（新規）

委員から文書で提出のあった質問・意見は添付のとおりです。

目次

(1)	寺井 幹雄	委員提出	2
(2)	後田 知久	委員提出	4

【感想】

「高度感染症研究出島特区出港式」について
地域連絡協議会ではどなたからも感想が出ませんでした。折角なので私の拙い感想を述べさせていただきます。

165年前に長崎医学伝習所が開設されて近代医学がここ長崎の地で始まりました。オランダ軍医ポンペから西洋医学を学び次へと続く人材を育て今日の日本医学の礎を作りました。昨日。その礎を基に新たな医学拠点、伝習拠点である「高度感染症研究出島特区」の船出と歴史の始まりに立ち会えた事は実に誇らしい事でありました。100年後、200年後の人々に「出島特区」を素晴らしい遺産として残せますよう今後の発展を祈念いたします。

【意見】

情報伝達について

情報を一定のルールに基づき仕分けした上で発信されなければならないと思います。情報の一方的な発信は単に混乱を発生させるだけです。特に重大事故については第一報および続報は即時記者会見にて発表すべきもので自治会長に発信されるものではないと考えます。また火事や気候災害については今でも登録さえしておけば誰でも防災メールを受信し知ることが可能です。すべてを自治会に連絡したところで正確に伝えることの難しさは子供のころ遊んだ「伝言ゲーム」で学んでいるはず。不正確な情報は人々に不安を招き想定外の事故を招くことになります。いま私たちが求めている「安心・安全」に逆行することになりかねません。一から十まですべての事を住民に伝えても意味がありません。やはり情報を精査し仕分けして各々最善の方法で伝えるべきかと考えます。また拡声器の利用には反対です。理由は安田先生のご意見と同じです。

実験情報開示フォームについて

研究内容や成果、将来への貢献など発信する際にはぜひ「BSL-4 リポート」を活用して頂きたい（これまでも何度も言っていますが）2022年9月発行のVol.5は全6ページです。同じページ数で年2回発行して頂けたら主な研究の概略について公開できると思います。また新たな地域コミュニケーション組織が発足した際の会議報告も可能であります。金と人員、労力がかかりますがぜひご一考願います。

テロ対策について

施設襲撃とか物理的なテロは絶対ないとは言えませんが数年前に視察したドイツのBSL-4施設の様子を見てもあまり考えられないと思います。それよりも知らぬ間にハッキングされ何かを仕掛けられる「サイバーテロ」対策が重要だと考えます。ハッキングされウイルス管理や実験動物管理システムに侵入されたらと考えるとリアルに怖いです。ご見解をお聞かせ下さい。

安全管理規則について

お忙しい中でここまで纏められたこと、大変なご苦勞があったとお察しいたします。お疲れさま

でした。

内容について会議の中でいろいろな意見が出ていましたが多分これからも数多くの意見が出てくるものと思われます。これだけの規則ですから一朝一夕に「完成」するはずもありませんので今年度末までを目途にいったん完成させて、その後は規則の追記、改定を繰り返しながら常により良いものを求めることが肝要だと思います。世界の動き、国内の動き、人々の考えなどその時々
の時代も反映させながら考えて頂きたいと思います。

ご質問、ご意見

氏名 (後田 知久)

最近私が新聞、テレビなどから飛び込んでくる情報によると、失念、誤判断
誤確認が原因で事故発生になったと思われるケースが多いように思います。

BSL-4 研究所で絶対に事故又は事件が発生しない事が当たり前ですが、超高
性能 AI ロボットを採用、活用により人為的なミスが予防、防止することが容
易になると思います。

研究に着手される度に実験計画書の作成及びチェック、実験スタッフ及び実
験室の完備、実験装置の完備など、事故防止のチェックポイント数は膨大な
数になると思われます。

素人の私がプロの方々に対して失礼なことを申し上げてすみませんが、安全
安心な研究所を維持していただく為に、安全管理、危機管理において失念、
誤判断、誤確認を予防、防止する手段に超高性能な AI ロボット採用、活用を
お願いします。既に考慮されておられれば幸いです。

令和4年11月22日 高尾校区連合自治会会長